

事務事業評価 & 総合計画実施計画調査シート

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	285 障害者小規模作業所運営事業	会計	01	一般会計
基本	05 障がいのある人の自立した生活を支える	款	03	民生費
策		項	01	社会福祉費
策	4 自立支援サービスの充実	目	04	障害者福祉費
		細目	102	障害者保護費
細々目	06	障害者小規模作業所運営事業		
基本計画該当頁		68		行革大綱の重点事項番号
担当部課	コード 130200 名称 健康福祉部 高齢障害課	評価者氏名	増田 基生	連絡先 22 - 9657 (内線) 2620

事業の計画・内容

対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
在宅の障がいのある人が通所する障害者小規模作業所 (対象件数 3施設)	社会的自立及び社会参加を促進するとともに、就労の場として、また社会的貢献の場が確保される。
根拠法令・要綱等 三重県障害者小規模作業所事業費補助金交付要綱	
開始年度 平成 16 年度	関連事業
終了年度 平成 年度	
本年度事業内容 伊賀市に所在する障害者小規模作業所に運営補助を行う(補助額は三重県基準、1ヵ所(手づくり工房あらかさ)。 伊賀市から他市町村の小規模作業所に通所した場合、当該市町村の補助額に対して、応分の負担を行う。(四日市市、亀山市)	状況変化等 平成18年度途中から、左記2つ目の四日市市通所分が新規で増えた。 平成19年度から「アイ・コラボレーション伊賀」は障害者自立支援法に基づく障害福祉サービスの対象となる。

整備内容

1 建設用地	千円
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	

運営体制

1 運営主体	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 民間委託等
委託先	人 千円
2 配置(予定)人員	
3 年間運営費	
4 市内の類似施設	

年度	進捗状況	平成17年度 決算内容			平成18年度 決算内容			平成19年度 計画内容			平成20年度 計画内容			平成21年度 計画内容			平成22年度 計画内容		
		事業内容	数量	金額(千円)	事業内容	数量	金額(千円)	事業内容	数量	金額(千円)	事業内容	数量	金額(千円)	事業内容	数量	金額(千円)	事業内容	数量	金額(千円)
委託	↔	補助金	1	5,760	補助金	1	5,760	補助金	1	4,407	補助金	1	4,407	補助金	1	4,407	補助金	1	4,407
工事		負担金	0	0	負担金	2	602	負担金	2	718	負担金	2	718	負担金	2	718	負担金	2	718
進捗率(%)		事業費計(A) 5,760			事業費計(A) 6,362			事業費計(A) 5,125			事業費計(A) 5,125			事業費計(A) 5,125			事業費計(A) 5,125		
事業投入人員		人件費(B)	0.1	人 720	人件費(B)	0.1	人 720	人件費(B)	0.1	人 720	人件費(B)	0.1	人 720	人件費(B)	0.1	人 720	人件費(B)	0.1	人 720
フルコスト(A)+(B)		6,480			7,082			5,845			5,845			5,845			5,845		

事業費(人件費除く)の財源内訳

(A) 事業費	5,760	6,362	5,125	5,125	5,125	5,125
Aの財源内訳	国庫支出金					
	県支出金	2,880	2,880	2,203	2,203	2,203
	地方債					
	受益者負担					
	その他一般財源	2,880	3,482	2,922	2,922	2,922
計	5,760	6,362	5,125	5,125	5,125	5,125
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・率 地方債の区分と充当率等	補助金分の1/2補助 心身障害者小規模作業所運営事業補助金				

事業種別	継続	補助	事業類型	ソフト事業	2次評価対象分
------	----	----	------	-------	---------

事業実績

活動指標	単位	実績値		目標値	
		H17	H18	H19	H20
施設数	か所	目標	目標	3	3
		実績	実績	3	3
		目標	目標		
		実績	実績		
		目標	目標		
		実績	実績		

評価指標

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
			H17	H18	H19	H20
日平均通所者数	利用実績を指標とする。	人/日	目標	目標	11	10
			実績	実績	9.8	9.8
			目標	目標		
			実績	実績		

評価

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	4	障害者の社会参加・自立を促進する事業であることから、必要性は最大であると考え、三重県の補助金要綱に基づいている。
有効性	4	通所実績も挙げており、有効性のある施策である。
達成度	4	施設数が当初の計画より上回った。
効率性	4	県要綱に基づいており、市単独加算もしていないことから、既に最大限の効果であるといえる。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A	現状維持	現状を維持し、他市町村への通所が出た場合には、随時対応する。